

ごみは資源として活用されています!

本市で収集された可燃ごみは、中央広域環境センターで処理されています。その過程で生成されたガスエネルギー（燃料ガス）は、ボイラーと発電機の燃料ガスとして利用し、平成29年度の発電量は8,354千kwhで、中央広域環境センターの使用電力の約38%が賅われました。また、ガスエネルギー以外のものは溶融され、新しい資源（スラグ、メタルなど）として活用されています。

【中央広域環境センターで資源として活用したもの】

副産物の種類	活用されるもの	平成29年度副産物量
溶融スラグ	建設資材・路盤材	2,480t
工業塩	塩ビ製品・融雪剤	497t
金属水酸化物	非鉄金属原料	469t
精製ガス	施設内設備のガスエンジン発電機の燃料	32,432千Nm ³
濃縮塩水	化学薬品	442t

平成29年度は、本市から同センターへ8,141tのごみを搬入しました。



【平成29年度吉野川市家庭系ごみ排出量】

可燃ごみ	小型複合	大型複合(粗大)	計	1人あたり(1年間)のごみ排出量
7,978t	161t	2t	8,141t	195.7kg



中央広域環境施設組合（中央広域環境センター）環境調査結果はホームページで公開中
ホームページアドレス <http://www.ck-kankyuu.org/>

中央広域環境センターでは、環境保全のために国の環境基準より厳しい基準を設けて運転をしています。
排ガスおよび周辺環境の調査結果は、公害防止審査委員会で審議され、周辺住民の方に公表しています。
また、ホームページでも公開しています。

●問い合わせ 市運転管理センター ☎25-2111 FAX25-2112
市環境企画課 ☎22-2230 FAX22-2247

2019 吉野川市阿波踊り振興協会 ポスター写真コンクール入賞作品決定



54点のご応募をいただきました。
大変ありがとうございました。
入賞は次の皆さんです（敬称略）。

- 特選 藤本 秀樹（鴨島町）
- 入選 大栗 隆夫（鴨島町）
- 入選 折野 勝規（鴨島町）
- 入選 中村 茂人（美馬市穴吹町）
- 入選 藤森 勲（山川町）
- 入選 山田 卓（阿波市阿波町）

●問い合わせ 吉野川市阿波踊り振興協会事務局
☎090(3188)3455
吉野川市観光協会
(事務局：商工観光課内)
☎22-2226 FAX22-2237

【フラット35】子育て支援型の利用対象要件が緩和されました

【フラット35】子育て支援型とは、吉野川市内に住宅を新築または購入する40歳未満の子育て世帯が、利用対象要件に該当する場合、住宅金融支援機構の住宅ローン【フラット35】の借入金利が当初5年間、年0.25%引き下げられる制度です。

12月3日から対象要件が緩和され、制度を利用しやすくなりました。

変更点

申請者もしくは配偶者の親世帯と同居または近居するという要件がなくなりました。

対象要件

下記の(1)~(3)すべてに該当すること。

- (1) 吉野川市来て観て住んで事業の補助対象要件に該当すること。
- (2) 取得する住宅が新築住宅又は既存住宅であること。
- (3) 補助申請者に、中学生以下である現に同居し扶養する子があること。

※利用希望者は、【フラット35】申し込み前に、企画財政課（本館3階）に利用申請し、対象確認の証明を受ける必要があります。

詳しくはお問い合わせいただくか、チャチャナビをご覧ください。



<【フラット35】子育て支援型・地域活性化型>



<来て観て住んで事業>

●問い合わせ
利用申請に関すること 市企画財政課 ☎22-2221 FAX22-2244
【フラット35】子育て支援型に関すること
住宅金融支援機構 ☎087(825)0512